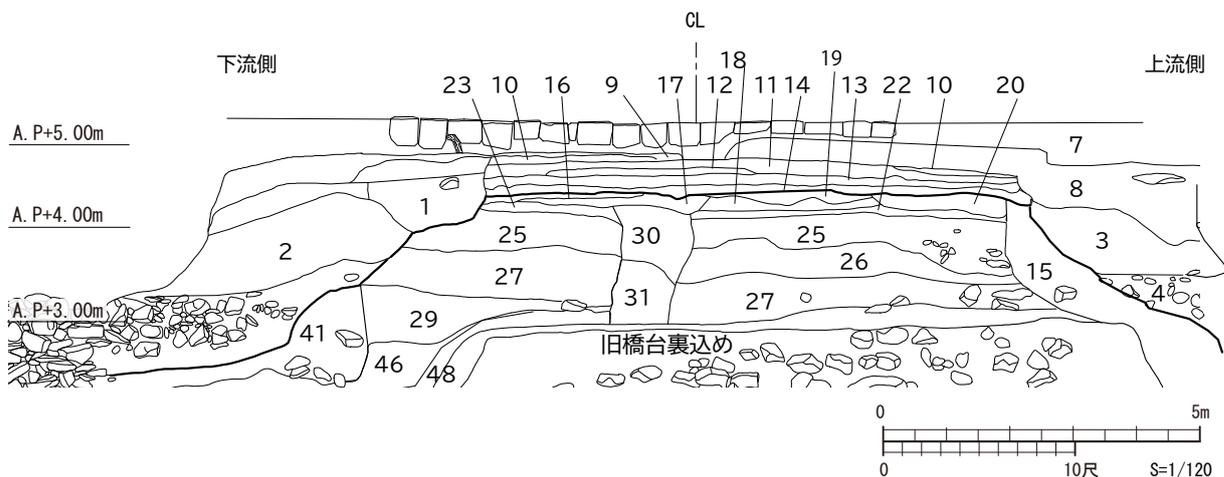


図 2-44 右岸橋台平面図・横断面図 (B断面)



- 1 10YR3/2 黒褐色砂質土 礫径10~25mm少量、炭化物極微量、粘性普通・締まりやや強い。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 礫径10~100mm微量、炭化物微量、焼土粒極微量、粘性あり、締まり普通、酸化物付着あり陶磁器等遺物含む。
- 3 2層に似ている。黄褐土ブロック 径30~50mm微量、締まりやや弱い。(2, 3層は水の影響で変色しているが同一層と思われる。)
- 4 3層に似ている。締まり普通。
- 7 砂利層 礫径1~10mm、締まり非常に強い。
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 炭化物微量、黄褐土ブロック極々微量、粘性あり、締まり強い。
- 9 8層と同じ
- 10 10YR3/2 黒褐色砂質土 礫径50~60mm、瓦を含む、粘性なし、締まり弱い。
- 11 10YR3/3 暗褐色砂質土 礫径3~30mm中量、粘性なし、締まり非常に強い。
- 12 11層に似ている。礫微量、漆喰片 径1~3mm極微量。
- 13 10YR3/2 黒褐色砂質土 炭化物・漆喰片極々微量、一部灰黄褐色粘土含む、粘性なし、締まり強い。
- 14 11層と同じ。炭化物・漆喰片微量。
- 15 10YR3/2 黒褐色土層 礫径5~20mm少量、炭化物微量、粘性普通、締まり普通。
- 16 10YR3/2 黒褐色砂質土 礫径1~20mm微量、炭化物・漆喰片極微量、粘性なし、締まり強い。
- 17 10YR3/2 黒褐色土層 炭化物・漆喰片少量、貝片極々微量、粘性普通、締まり普通。
- 18 ローム粒 礫径5~30mm砂の混合土層、炭化物極々微量、粘性普通、締まりやや弱い。
- 19 16層と同じ?
- 20 10YR3/2 黒褐色粘性土 炭化物微量、焼土粒極々微量、粘性あり、締まり強い。
- 22 10YR4/3 に近い黄褐色土 礫径10~30mm微量、炭化物・焼土粒極微量、貝片極々微量、粘性あり、締まり普通。
- 23 10YR3/4 暗褐色土層 礫径5~30mmローム粒中量、炭化物・焼土粒微量、粘性あり、締まりやや強い。
- 25 10YR2/2 黒褐色土 礫径1~30mm多量、粘性あり、締まり強い。
- 26 ローム層と暗褐色土の混合土 ロームブロック 径10~60mm多量、白色粘土極微量、炭化物極々微量、粘性普通、締まり強い。  
層の中間に瓦の層あり。
- 27 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック 径10~50mm中量、炭化物微量、ローム粒少量、白色粘土ブロック極微量、粘性普通、締まり強い。
- 29 10YR4/2 灰黄褐色土 焼土粒少量、炭化物微量、灰色粘土ブロック微量、粘性普通、締まり普通。
- 30 10YR3/4 暗褐色土 礫径10~50mm中量、粘性ややなし、締まりややあり。
- 31 10YR3/4 暗褐色土 礫径10~50mm中量、褐灰色粘土ブロック少量、炭化物極々微量、粘性普通、締まり普通。
- 41 10YR3/2 黒褐色土とローム土と玉砂利 径10~50mmの混合土 炭化物・焼土粒・貝片微量、粘性普通、締まり強い。
- 46 10YR3/3 暗褐色砂質土 礫径1~50mm中量、炭化物 径1~5mm微量、焼土粒極微量、粘性ややなし、締まりやや弱い。
- 48 10YR3/3 暗褐色土 礫径1~30mm少量、焼土塊 径10~30mm極微量、炭化物微量、焼土粒 径1~10mm微量  
灰色粘土ブロック 径5~30mm少量、粘性普通、締まり普通。

図 2-45 右岸橋台横断面 (B 断面) 土層図

治・大正期にかけての路面が4面確認され、前述した試掘調査地点である枡形内部に続いていたものと考えられる。

その構造は、路面下に薄くロームを盛土整地し、その上部に径2~3cm程度の砂利を敷き詰めている。

#### ・旧常盤橋門（江戸時代）右岸橋台石垣

右岸橋台石垣は明治期橋台石垣内で堀に面した南北方向の東面する石垣が発見された。この石垣は明治期常盤橋の橋台石垣面から奥側に約4.0mに位置していた。石垣は基盤層である硬化した青灰色シルト層上に梯子胴木を敷き、その隙間に安山岩の割石を充填して基礎を構築し、その上に根石を築いている。石垣は根石1~2段が遺存しており、その積み方は小面長約60cm、控え長約80cmの築石を打ち込みハギによる布積みであった。

江戸時代の橋台石垣は堀に面した南北方向の東面する石垣だけであったが、上流部では隅角部に伴う胴木の角部分が発見された。また、高麗門石垣に付された旧橋台の据え付け位置を示す朱書きから橋台形状を把握することができた。朱線の天端が前出の江戸時代2面の14層に該当することから、この路面に伴う朱書きと考えられる。その推定ラインを平面図と断面図【図2-48】に示した。この想定線によると、近代の常盤橋橋台よりも少し下流側によった形状を示していたと考えられる。

・常盤橋門木橋橋脚

右岸橋台で確認された旧木橋の橋脚は、2列5本が確認された。旧石垣に平行して2列が芯々で3.53 m（約11.6 尺）間隔であった。本来は3本一組であったと考えられる。

その前方の約2.7 m（約9尺）離れた地点には3本並列の木橋があり、その間隔は芯々で3.6 m（約12 尺）であった。その結果、この木橋は横断方向では12尺、縦断方向には9尺を基準としていると考えられる。

橋脚は径約43～48cmで、5～6面の面取りをしている、高さ約3mが遺存していた。

・常盤橋（明治時代）右岸橋台石垣

右岸横断方向のB断面【図2-45】での橋台石垣は、上流・下流側とも近代1面（11層）の路面を切って構築されていることが確認された。



図 2-46 左岸橋台平面図・横断面図（C 断面）

③左岸橋台横断面（C断面）の状況

岸橋台の横断面（南北方向）は、外堀通りとの境界で確認した。この面は常磐橋左岸橋台内の江戸時代旧橋台石垣面に位置し、その外側には常磐橋橋台築石および裏込め構造を把握することができた。

・旧常盤橋門（江戸時代）橋台石垣

旧常盤橋門の左岸橋台石垣は明治期橋台内で、堀に面する石垣が発見された【図2-46】。明治期常磐橋の橋台築石面から背面側約4.0mに位置していた。石垣は基盤層である硬化した青灰色シルト層上の標高A.P.-3.2mに薄い礫を敷き、その上に根石を築いている。

橋台石垣は6段が遺存しており、その積み方は小面長約90cm、控え長約90cmの築石による打ち込みハギで、やや乱れた布積みであった。

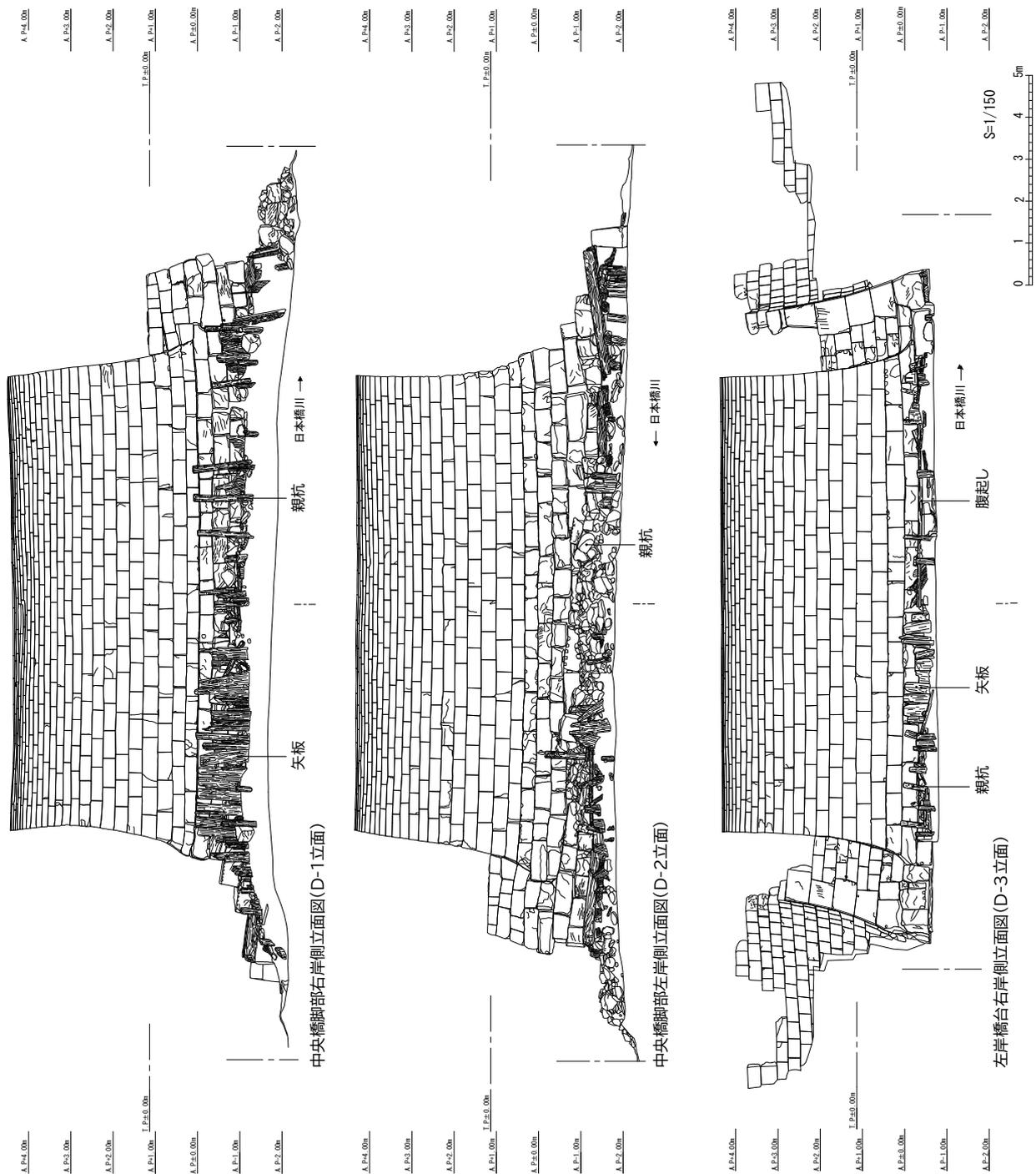


図 2-47 矢板撤去前立面図

・常盤橋門旧木橋橋脚

左岸橋台で確認された旧木橋の橋脚は、旧石垣に平行して3本が確認された。その間隔は芯々で3.7 m (約12.2 尺)間隔であった。木橋橋脚は径約43~48cm で、5~6面の面取りをしている、高さ約2mが遺存していた。

これら木橋は常磐橋の捨土台に接しており、右岸と同様に明治期橋台を構築する時に基礎を支える役割として残されたと考えられる。

・常磐橋（明治時代）橋台石垣

常磐橋左橋台石垣の裏込めは、築石に接して直方体の凝灰岩（房州石）が裏築石として構築されていた。その石材の大きさは小口約29cm 長手約70cm で、入れ子状に積まれていた。

④中央橋脚基礎部・左岸橋台立面（D 立面）の状況

解体調査により常磐橋の仮設遺構として、親杭・腹起し・矢板・捨石が確認された【図2-47】。親杭・腹起し・矢板は築造時の止水矢板を構成していたものと考えられ、中央橋脚部左右岸両面と左岸に見られた。捨石は中央橋脚部左岸側中央に集中している。約15~40cmの捨石で洗堀防止のために投入されたと思われる。

6) まとめ

左右岸の旧橋台石垣及び木橋橋脚が発見され、現存する枡形石垣とともに江戸城外郭門の遺構が良好に残っていた。枡形石垣解体調査とあわせて常盤橋門の特徴や修復履歴が報告されている。

発掘調査で確認された常盤橋門の改修は、出土遺物から江戸時代には1657年の明暦大火で被災したと考えられる門に葺かれていた瓦類が左右岸ともで発見され、この時期以降、災害等による数度の修理が行われ、近代以降は明治10年（1877）に旧橋台や木橋橋脚を残して、それを新たに築いた常磐橋橋台石垣の支えとしていた。

江戸城外郭門としての常盤橋門の保存状況は枡形石垣のほか、橋台石垣および右岸橋脚2列5本、左岸橋脚1

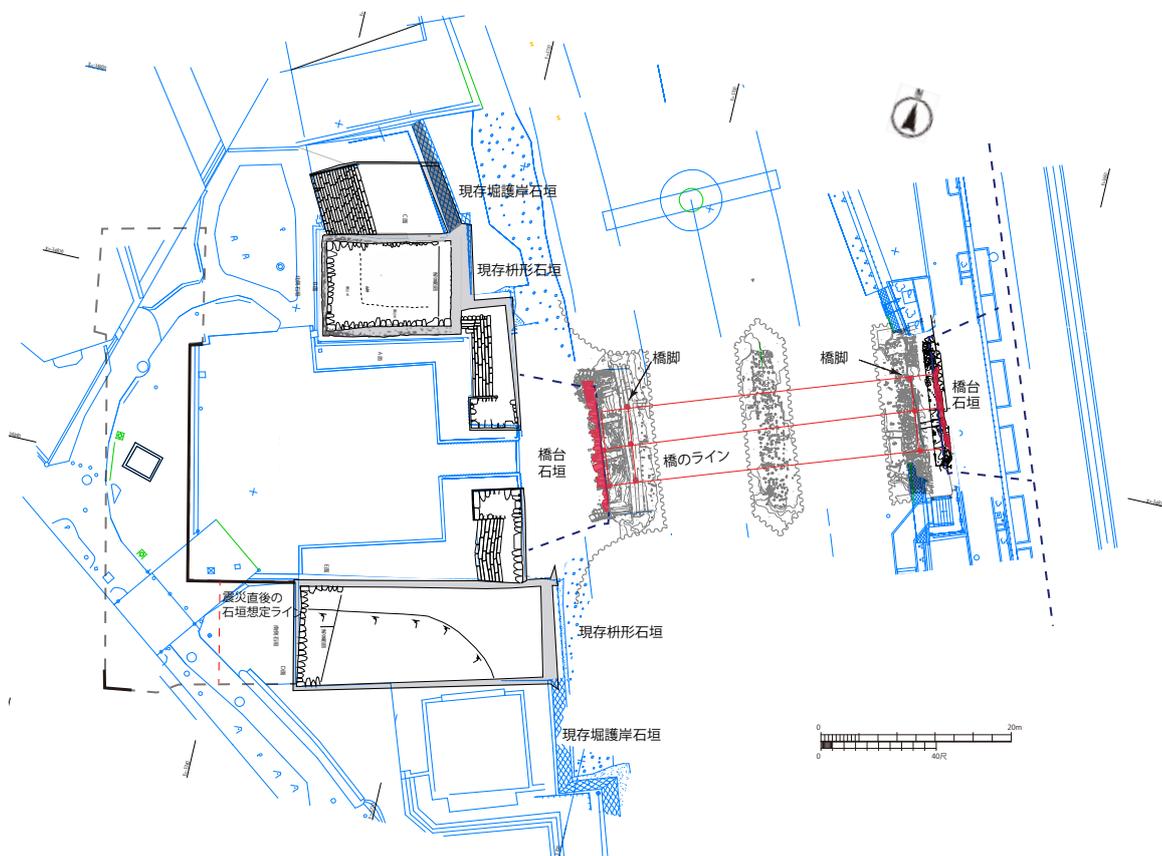


図 2-48 常盤橋門跡遺構保存状況図

列3本の下部構造が明治期の常磐橋内部に残っていることが報告されている。

橋台石垣は、今回の調査で堀に面した一面の石垣下部が発見された。この成果によって常磐橋右岸橋台内と左岸の外堀通り歩道部の地表下に石垣が続いている可能性が高い。

一方、木橋橋脚は「旧江戸城写真帖」【図2-16】によってその状況が把握できる。同図によると、橋脚は3本一組で右岸・左岸側に各3列、計18本の橋脚で支えられている。保存が確認された3列以外にも現在の日本橋川河床に基礎部が残っている可能性もある。

今回の旧橋台及び木橋橋梁の発見で、【図2-48】のように桁形と橋台及び橋の位置関係が約7°ずれていることが報告されている。これは、常盤橋門のある外堀が神田橋から一石橋・呉服橋にかけて東から南へ屈曲しており、その影響であったと考えられる。

(5) 地下遺構の調査

常盤橋門跡では、これまでに32箇所が発掘調査（試掘調査・立会調査を含む）が行われている。各調査の概要は【表2-6】のとおりである。また、調査位置及び、その結果をもとに地下遺構の存否状況を平面に表示すると【図2-49】のようになる。外観としては、昭和44年（1969）の首都高開削範囲外には地下遺構が残されているケースが多く、枅形石垣の東西部分では石垣や路面が検出されている。また、常盤橋の下部には近世初期からの遺構が残されており、保存状況は良好である。

表 2-6 地下遺構の発掘調査一覧

年度	調査名	目的	調査地点	主な検出遺構等
平成23 (2011)	史跡常盤橋御門試掘調査	常盤橋地区再整備計画立案のための基礎調査	H23試掘A	明確な遺構の検出なし。
			H23試掘B	東側は地上の復元部のみ遺存。西側地下で復元された根石1石を検出。
			H23試掘C	明確な遺構の検出なし。
			H23試掘D	明確な遺構の検出なし。
			H23試掘E	地上の復元部のみ遺存。
			H23試掘F	地上の復元部のみ遺存。
			H23試掘G	枅形南側石垣を支える根石の下部とコンクリート基礎を検出。
平成23 (2011)	歩道切り下げ工事の立会調査	枅形石垣修復工事に伴う歩道切り下げによる影響確認	H23立会	復元された石垣2段を検出。上段は地表、下段は地中に残る。
平成25 (2013)	常盤橋解体復旧工事に係る事前試掘調査	石橋解体に先立つ橋台部の遺構確認	H25試掘1	常盤橋の橋台敷石、路盤裏込め、橋台石垣等が出土。
			H25試掘2	
			H25試掘3	
			H25試掘4	
			H25試掘5	
			H25試掘6	
			H25試掘7	
平成27 (2015)	大手町地区補助158号線舗装その他工事に伴う試掘調査	史跡に南面する区道の整備	H27試掘①	南北を長軸とする鍵状を呈す石垣列1段を検出。
			H27試掘②	東西方向に並ぶ石垣列1段を検出。H27試掘①に接続する可能性あり。
			H27公園施設	明確な遺構の検出なし。
平成27 (2015)	常盤橋解体修理	修理のための一時解体および影響範囲の調査	H27試掘1	常盤橋門北側に続く外堀護岸石垣を確認。近代以降に積み直されたものであるが、石垣創建時の石垣石材が使われていることが判明した。
			H27試掘2	明確な遺構の検出なし。
			H27試掘3	常盤橋右岸橋台敷石および親柱基礎部、明治時代の路面を検出した。
			H27試掘4	明確な遺構の検出なし。
			H27試掘5	明確な遺構の検出なし。
			H27試掘6	明確な遺構の検出なし。
			H27試掘7	雁木石下に3段以上の石垣築石（平石）を確認した。
			H27試掘8	戦後の公園路面を確認した。
			H27試掘9	戦後の公園路面と思われる礫層（4層）が確認された。
			H27試掘10	路面と思われる砂と礫混合土層（2層）が確認された。
			H27試掘11	戦後の公園路面を確認した。
			H27試掘12	戦後の公園路面を確認した。
H27試掘13	近現代2面の路面を確認した。			
令和元 (2019)	大手町地区補助158号線下水道その他工事に伴う埋蔵文化財試掘調査	下水道工事中に見えられた石垣の記録調査	R1試掘	東西方向を主軸とする石垣列1段とそれに直行する石垣1石を検出。枅形門南西の隅角の一部とみられる。

※調査地点名称は次ページの図と対応

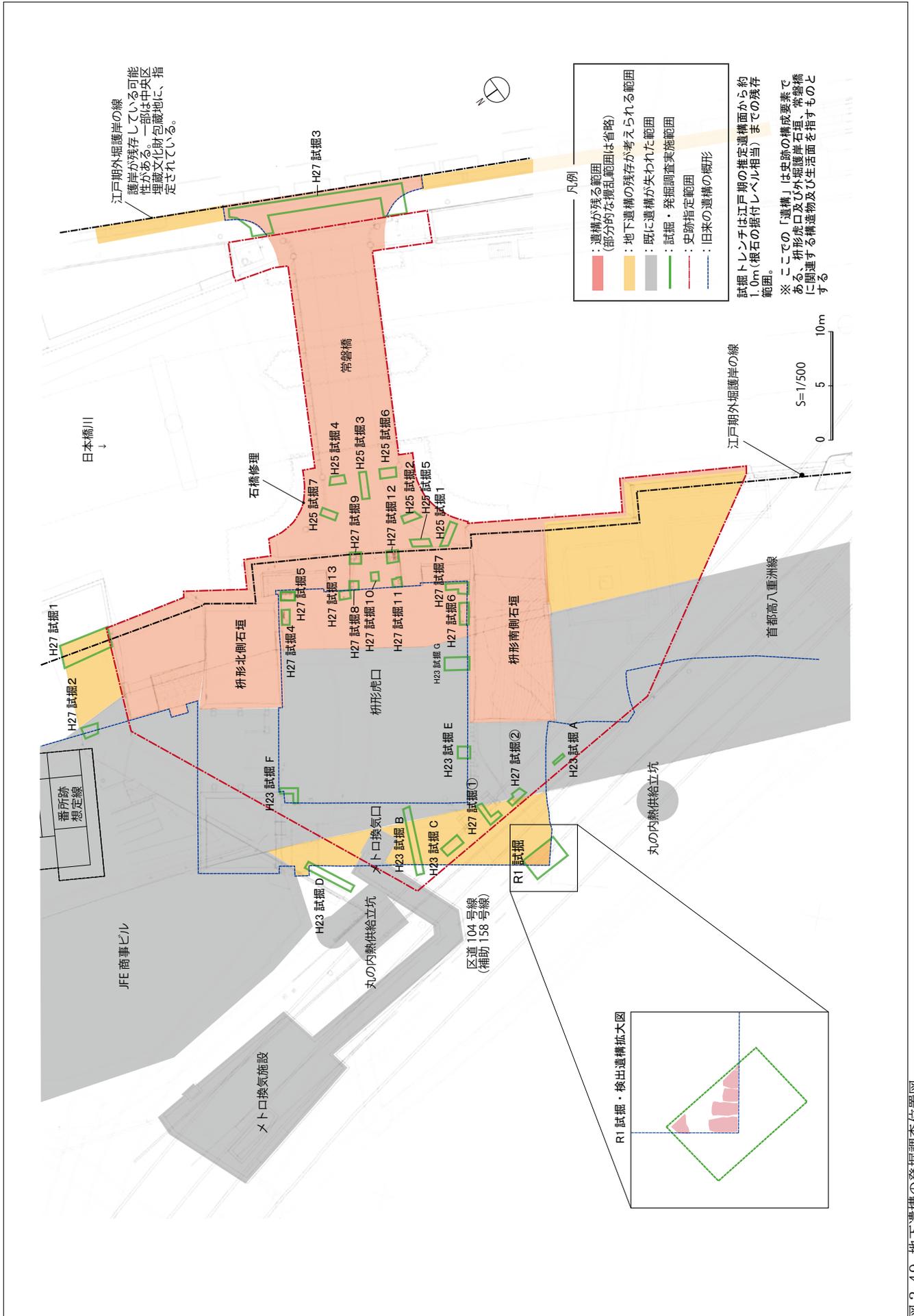


図2-49 地下遺構の発掘調査位置図

## 1) 枡形石垣内【図 2-50,51】

### ①北側石垣周辺

昭和40年代の首都高八重洲線地下化工事の際に、基礎部も含めて大半が改変されていることが確認されており、明確な遺構は検出されていない。しかし、H 27 試掘4・5の調査で地表下約0.6mに石垣の根固め層の一部とみられる礫層が確認されており、過去の改変を受けていないA面東側では部分的に石垣の根固めに関連する遺構等が存在する可能性も考えられる。

### ②南側石垣周辺

首都高八重洲線地下化工事の影響を受けているE面西側には明瞭な遺構が確認されていないが、E面東側の遺存状況は比較的良好である。H27 試掘6で地表下約1mから石垣の根固めとみられる栗石層が検出されたほか、H 27 試掘7でも高麗門脇雁木石下の裏込とみられる支持層が確認されている。

### ③東側石垣周辺

複数の調査で、戦後のものとみられる近代の整地面の存在が確認されており、その下部にも整地面が検出されるなど、遺構の保存状況は良好である。確認されている整地面は4面で、それぞれ近世後期から戦後のいずれかの年代のものとみられるが出土遺物が少なく正確な年代特定には至っていない。これらの整地面は、多くの場合で小砂利や砂を伴っており、木橋もしくは石橋に向かう路面であったと考えられる。

## 2) 石垣消失部【図2-52,53】

### ①公園内の石積み表示周辺

公園内の石積み表示列は、首都高開削工事の際に設置されたものと考えられる。位置関係は近世当時のものを踏襲しており、1段もしくは2段の石垣石で構成されている。石垣石の石材はいずれも安山岩で、小面50~70cm、控長さ90~100cmの大形石材であること、大形の矢穴（矢口10cm、奥行8cm）がみられること、小面の表面加工が細かいノミ加工や「すだれ」が施されていることなどから、近世以来の石材が使われているものとみられる。しかし、構造上は近現代の埋め土や山砂上に据えられたもので、部分的にモルタルの充填もみられ、石垣本来の基礎構造は失われている。

当該箇所は首都高八重洲線地下化工事の影響を受けた範囲であるため、近世以来の遺構はすでに失われているが、その中でもH27 試掘①及び②で近代以降のものとみられる石垣列が検出されている。これらの石材は石垣本来の位置からは外れていること、道路との境界に並べられていることなどから関東大震災後の公園整備に伴って枡形石垣の補強のために据えられた可能性が考えられる。

### ②公園外の歩車道部

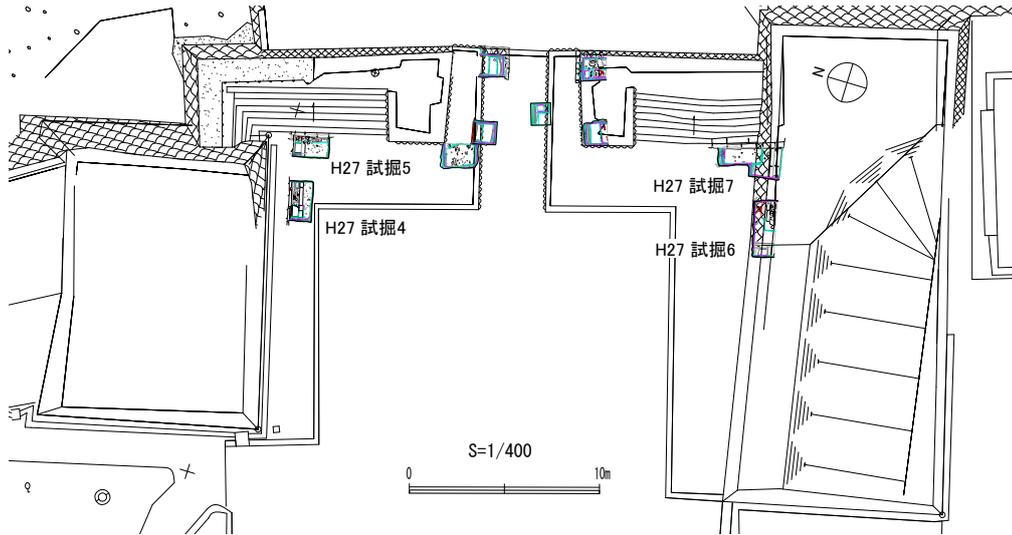
H23 試掘 A、B、C、Dのいずれの地点でも明確な遺構は検出されていないが、R 1試掘で現路面下約1mから枡形石垣南西角の根石とみられる石垣1段、石垣石5石が検出され、部分的に遺構が残されていることが明らかになった。検出された根石とみられる石垣は調査区外にも延びており、延長は把握できていない。

## 3) 護岸周辺【図2-54】

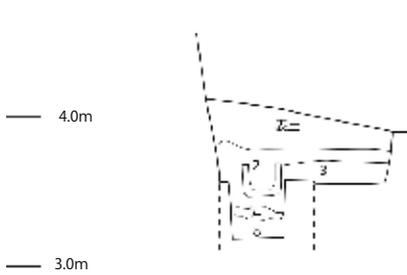
近世以来の明確な遺構は確認されていないが、H27 試掘1で近代以降に近世以来の石垣石を用いて積み直した痕跡が確認されている。このため、地中深い部分にはそれ以前の遺構等が保存されている可能性も考えられる。

## 4) 常磐橋橋台【図2-55,56】

右岸側では、近代の常磐橋の橋台裏込として埋められた礫層が広く展開する。H25 試掘3及び5などではその下層に近世の橋台裏込とみられる粘土層も確認された。左岸側では、近代の常磐橋に関連する橋台石敷きや親柱基礎が確認された。

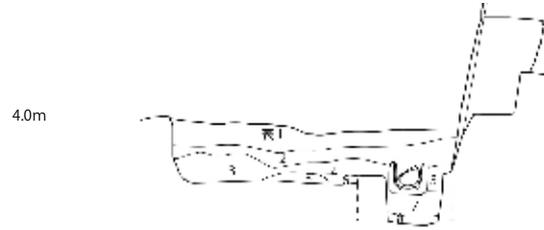


H27 試掘 5 ~ 7 位置図



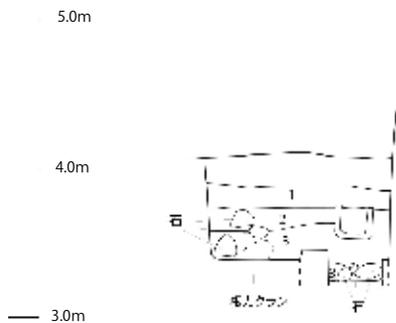
- 1 10YR5/2(灰黄褐色砂層) しまりやや弱 粘性なし
- 2 10YR7/8(黄橙色砂層・山砂) 黒褐色 微量 粘性なし しまりやや強
- 3 10YR4/2(灰黄褐色土層) 礫φ1~10少量 炭化物 焼土粘 極微量 粘性普通 しまり普通
- 8 10YR2/2(黒褐色砂層) 礫φ5~50微量 粘性あり しまりやや弱"

H27 試掘 4 東壁断面図



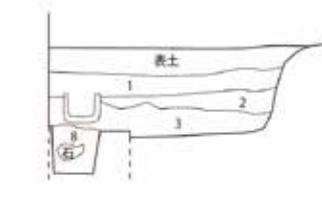
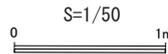
- 2 10YR7/8(黄橙色砂層・山砂) 黒褐色 微量 粘性なし しまりやや強
- 3 10YR4/2(灰黄褐色土層) 礫φ1~10少量 炭化物 焼土粘 極微量 粘性普通 しまり普通
- 4 10YR4/2(灰黄褐色土層) 炭化物と2層の混合土
- 5 10YR4/2(灰黄褐色土層) 焼土層 炭化物少量 灰色粘土 極微量 貝片微量 しまりやや弱 粘性ふつう
- 6 10YR5/2(灰黄褐色砂層) 炭化物微量 灰色粘土極微量 焼土粒極微量 しまりやや強 粘性ふつう
- 7 10YR7/1(灰白色砂層) しまり やや弱 粘性ややあり(シルト質に近い)
- 8 10YR2/2(黒褐色砂層) 礫φ5~50微量 粘性あり しまりやや弱"

H27 試掘 5 西壁断面図



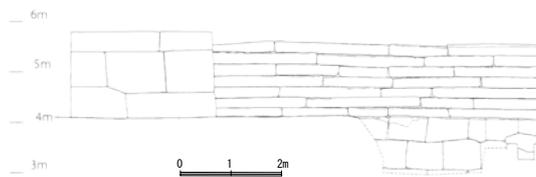
- 1 10YR5/2(灰黄褐色砂層) しまりやや弱 粘性なし
- 2 10YR7/8(黄橙色砂層・山砂) 黒褐色 微量 粘性なし しまりやや強
- 3 10YR4/2(灰黄褐色土層) 礫φ1~10少量 炭化物 焼土粘 極微量 粘性普通 しまり普通
- 8 10YR2/2(黒褐色砂層) 礫φ5~50微量 粘性あり しまりやや弱"

H27 試掘 6 東壁断面図



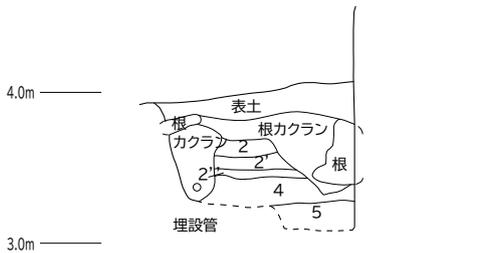
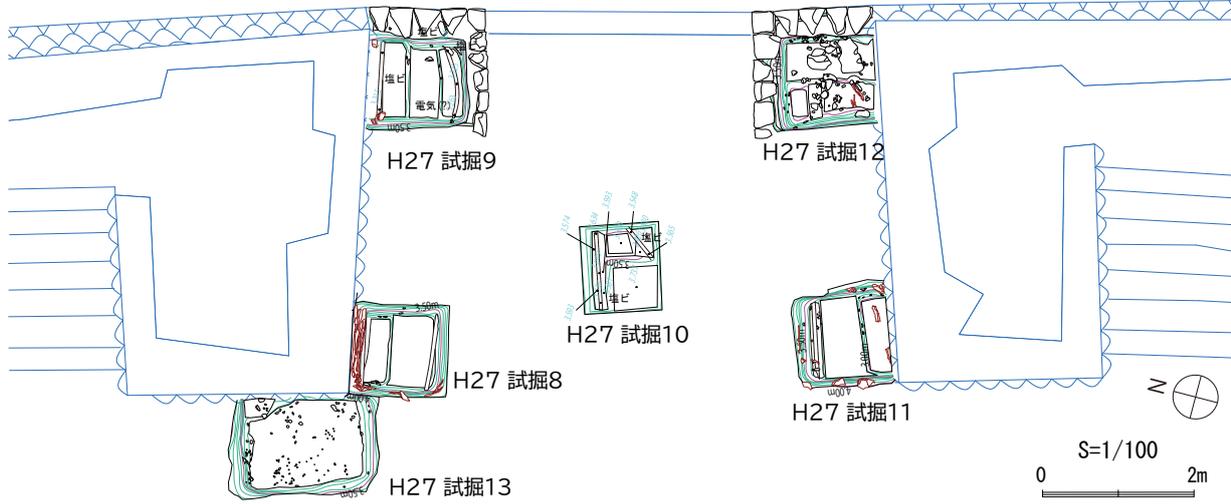
- 1 10YR5/2(灰黄褐色砂層) しまりやや弱 粘性なし
- 2 10YR7/8(黄橙色砂層・山砂) 黒褐色 微量 粘性なし しまりやや強
- 3 10YR4/2(灰黄褐色土層) 礫φ1~10少量 炭化物 焼土粘 極微量 粘性普通 しまり普通
- 8 10YR2/2(黒褐色砂層) 礫φ5~50微量 粘性あり しまりやや弱"

H27 試掘 7 西壁断面図



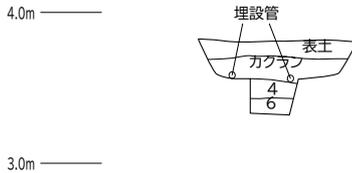
H27 試掘 7 東壁立面図 S=1/150

図 2-50 枅形石垣内の調査状況1



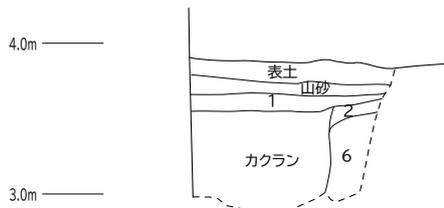
- 2 10YR3/3(暗褐色砂層) 礫φ1~20少量 炭化物 焼土粘 貝片 少量 しまり強 粘性なし (第2-a面)
- 2' 10YR3/3(暗褐色砂層) 礫φ5~10と灰色砂の混合層 上部に焼土と黒褐色が一部混じる しまり強 粘性なし (第2-b面)
- 2'' 10YR3/3(暗褐色土層) 砂利層φ5~10mm しまり強 (第2-c面)
- 4 10YR4/2(灰黄褐色砂層) 砂と礫φ10~20の混合層 しまり強 粘性ややあり (第3-b面)
- 5 10YR3/3(暗褐色土層) 礫φ30~40多量 しまりやや弱 粘性ふつつ (第4面)

H27 試掘8西壁断面図



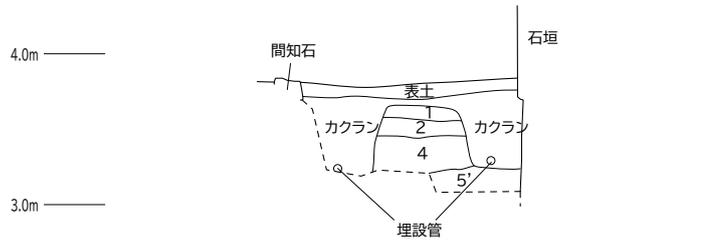
- 4 10YR4/2(灰黄褐色砂層) 砂と礫φ10~20の混合層 しまり強 粘性ややあり (第3-b面)
- 6 10YR4/1(褐灰色土層) 礫φ1~10 少量 しまりやや弱 粘性ふつつ

H27 試掘10東壁断面図



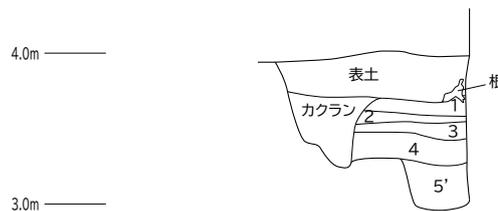
- 1 10YR3/3(暗褐色砂層) 焼土粒 炭化物 微量 しまり強 粘性なし (第1面)
- 2 10YR3/3(暗褐色砂層) 礫φ1~20少量 炭化物 焼土粘 貝片 少量 しまり強 粘性なし (第2-a面)
- 6 10YR4/1(褐灰色土層) 礫φ1~10 少量 しまりやや弱 粘性ふつつ

H27 試掘12西壁断面図



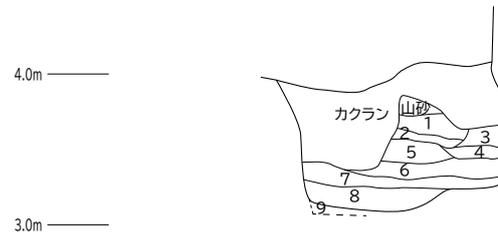
- 1 10YR3/3(暗褐色砂層) 焼土粒 炭化物 微量 しまり強 粘性なし (第1面)
- 2 10YR3/3(暗褐色砂層) 礫φ1~20少量 炭化物 焼土粘 貝片 少量 しまり強 粘性なし (第2-a面)
- 4 10YR4/2(灰黄褐色砂層) 砂と礫φ10~20の混合層 しまり強 粘性ややあり (第3-b面)
- 5' 10YR3/3(暗褐色土層) 礫φ1~20 微量 しまりやや弱 粘性ふつつ (第4面)

H27 試掘9西壁断面図



- 1 10YR3/3(暗褐色砂層) 焼土粒 炭化物 微量 しまり強 粘性なし (第1面)
- 2 10YR3/3(暗褐色砂層) 礫φ1~20少量 炭化物 焼土粘 貝片 少量 しまり強 粘性なし (第2-a面)
- 3 10YR4/1(褐灰色砂層) 礫φ1~5極微量 しまり強 粘性ふつつ (第3-a面)
- 4 10YR4/2(灰黄褐色砂層) 砂と礫φ10~20の混合層 しまり強 粘性ややあり (第3-b面)
- 5' 10YR3/3(暗褐色土層) 礫φ1~20 微量 しまりやや弱 粘性ふつつ (第4面)

H27 試掘11東壁断面図

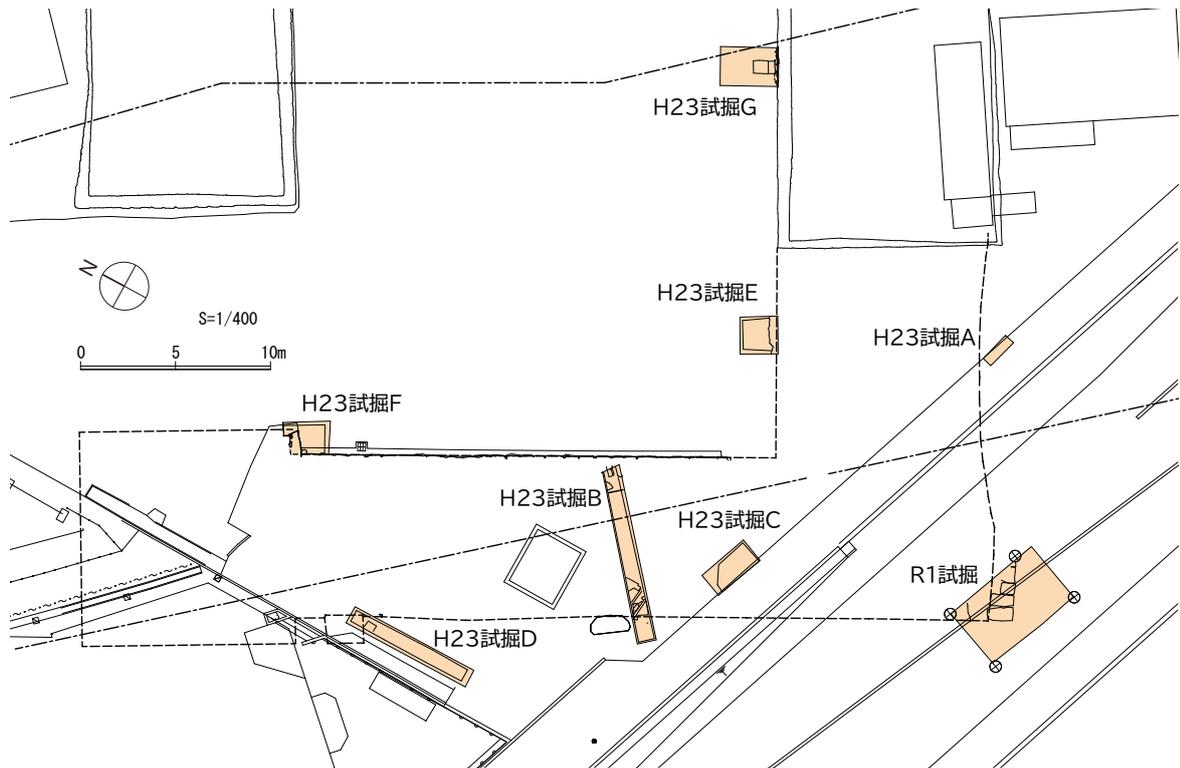


- 1 10YR3/2(黒褐色土層) 礫φ1~3極微量 細かい極微量 貝片 炭化物 極々微 粘性ややあり しまりやや強 コンクリ片を含む
- 2 10YR3/2(黒褐色土層) 1層より砂質土 しまりやや強 粘性ふつつ
- 3 10YR3/3(暗褐色土層) 灰色粘土を少量含む しまりやや強 粘性ややあり
- 4 10YR3/3(暗褐色土層) 酸化鉄が多量に混じる 炭化物も微量混じる
- 5 10YR4/2(灰黄褐色砂層) 礫φ1~10 極微量 しまりやや強 粘性なし
- 6 10YR3/2(黒褐色土層) 炭化物 微量 礫φ1~30 極微量 瓦・遺物を含む しまりやや弱 粘性ややあり
- 7 10YR4/3(にぶい黄褐色砂層) 石垣側が水の影響で灰色に変色 しまりやや強 粘性なし
- 8 10YR3/3(暗褐色土層) 上部1cm砂が敷いている。上部3~4cmは礫φ10~50が少ないが下部は多量である。しまり強 粘性ややあり
- 9 10YR4/4(褐色土層) 漆喰 少量 礫φ1~5微量 しまり強 粘ふつつ

H27 試掘13北壁断面図



図 2-51 枅形石垣内の調査状況2



H23 試掘 A 写真



H23 試掘 B 写真



H23 試掘 C 写真



H23 試掘 E 写真



H23 試掘 F 写真



H23 試掘 G 写真

図 2-52 石垣消失部（公園内）の調査状況

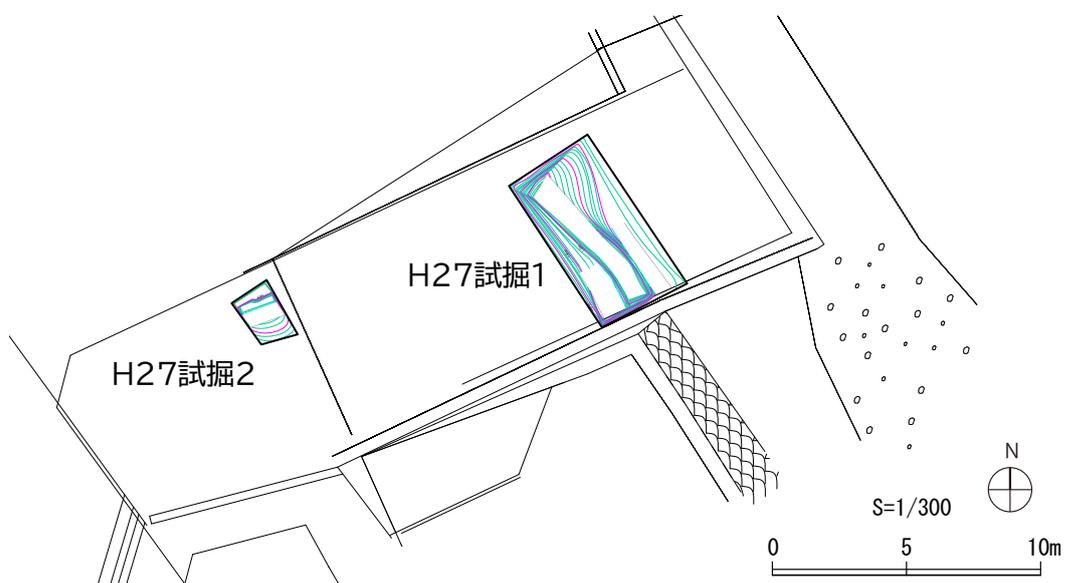


R1 試掘 平面オルソ写真

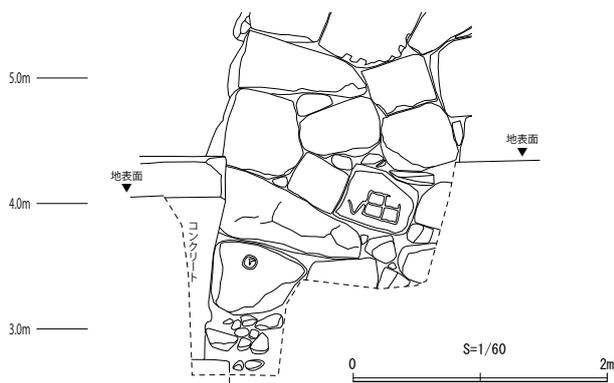


R1 試掘 断面オルソ写真

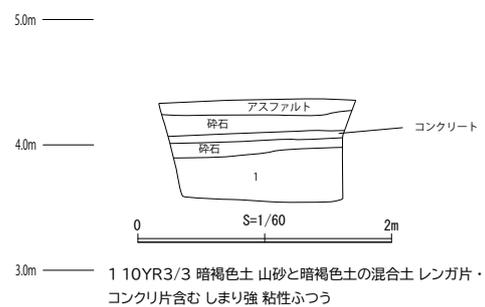
図 2-53 石垣消失部（公園外歩車道部）の調査状況



H27 試掘 1・2平面図



H27 試掘 1 断面図



H27 試掘 2 断面図

図 2-54 護岸周辺の調査状況

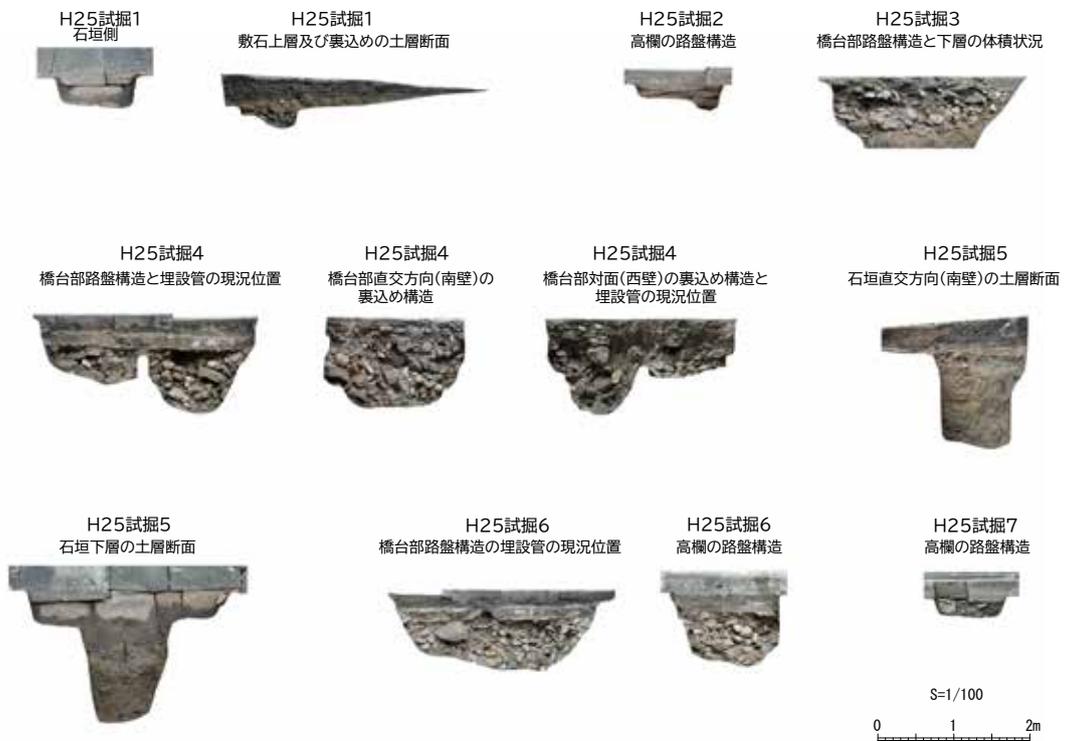
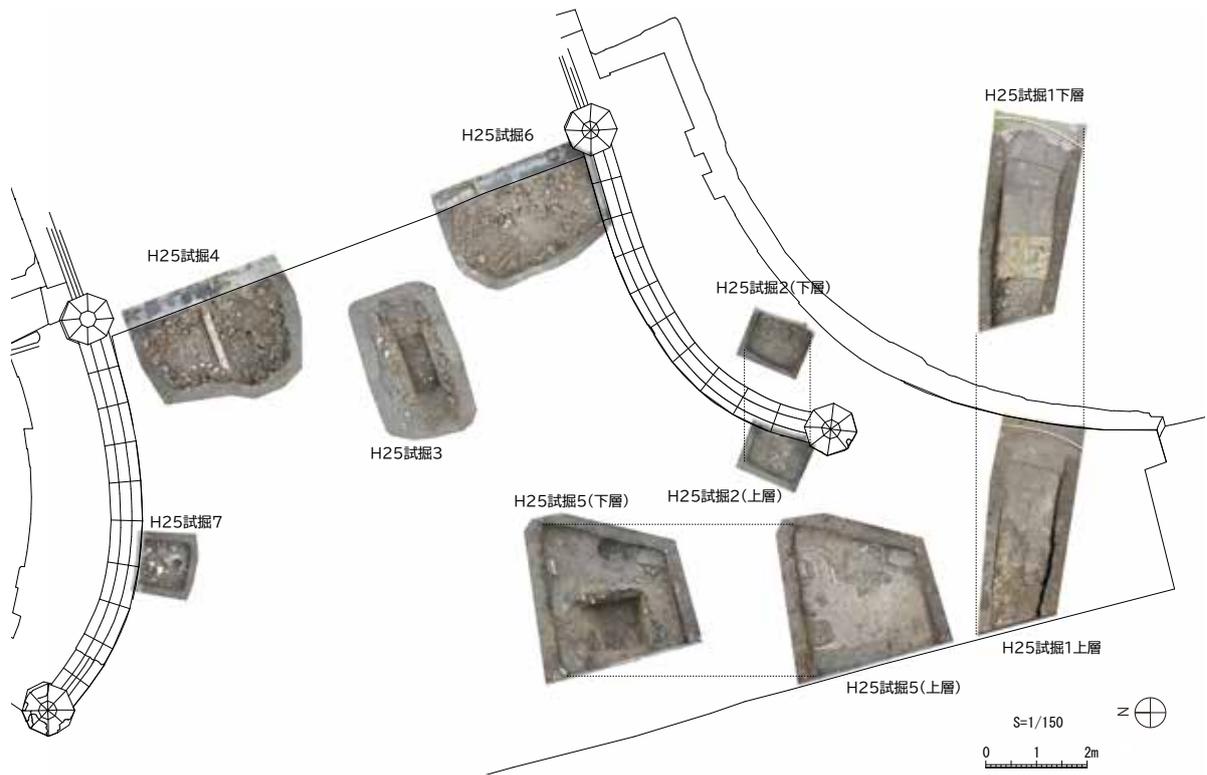


図 2-55 常盤橋橋台の調査状況・右岸側

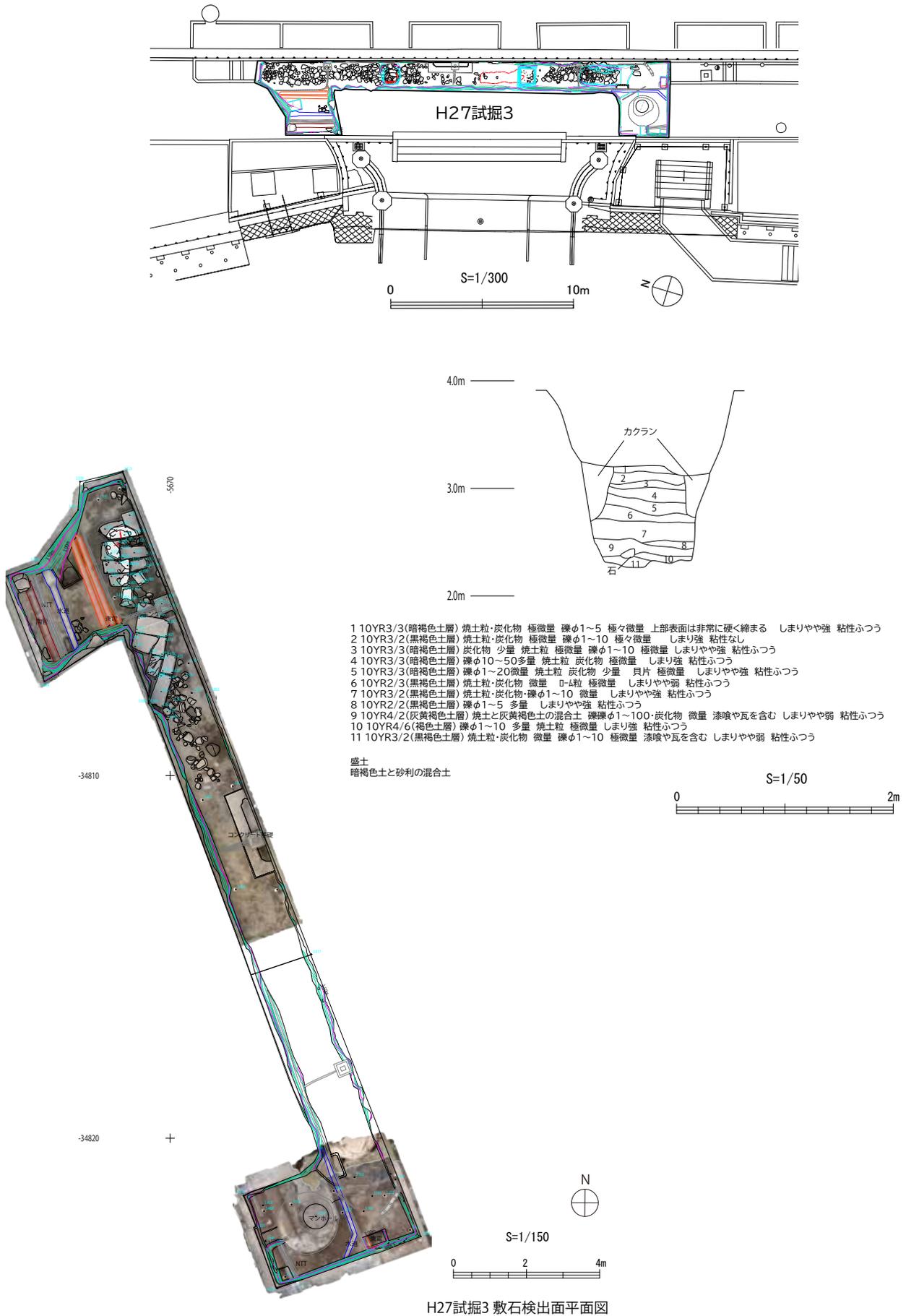


図 2-56 常盤橋橋台の調査状況・左岸側